



# くまがい市議が政府交渉

## 教育問題・市職員の現状を赤裸々に！

### 地域の過渡期、子どもが落ち着いて学べるよう、手厚い人員配置が必要！

11月21・22日の二日間、日本共産党北海道委員会では、紙智子・大門みきし両

参議とともに政府交渉を行い、夕張市からくまがい桂子市議が参加、夕張の実情を赤裸々に訴え、改善を要請しました。

### ■学校教育の問題

：父母、保健師、校

### (1) 教員の加配・特別支援員の増員を！

・これまでの各校での少人数学級から、急に40人学級の大人数になって、各学年に1、2名の不登校、一斉授業についていけない子もいる。  
・集中できない子、指示を理解できない子、言語の発達が遅いなど、それ



ぞれの子どもたちの発達を保障する学校教育を。  
・子どもたちが落ち着いて授業が受けられるよう、少人数学級・支援員の増員など、一人

一人を大切にすることが大切にする教育環境を。  
・小学校で最低でも4、5

人の支援員が必要、学力が落ちている。  
・中学校では、最低でも2、3人の教員の加配又は支援員を。

子どもたちの将来に向けて自信をつけてやるために、できるだけ少数体制で、ていねいな指導が必要。  
・現在夕張市のおかれている特殊な環境や、不十分な教育環境も人口流出の一因。

### (2) 準要保護(就学援助)の枠拡大を！

・学用品・教材・給食費・修学旅行費用の支払い困難な家庭が増加、雇用が少なく収入激減、働きたくても働く場がない。

### (3) 地域に雇用を！

・経済基盤と、地域で働く先輩たちが見える状況で、子供たちに夢を持たせ、そのために学ぼう希望をもたせてやりたい。

### ■市職員の問題

：保健師・幹部職員・若手職員より聞き取り

### (1) 健康で安心できる職場に！

・仕事量の増大により、精神疾患・心の問題などで4人休職、他の職員の仕事量が増加、疲労・ストレスなどで、心労、仕事の効率低下など。  
・他の職員と余裕がない。  
・自分がつぶれたら終わりと追いつめられて仕事をこなす日々。

職もあつた。  
・必要な仕事をこなせない、人員不足。  
(家族への責任感)  
クする職員の激増、履歴書を出す人も。

### (2) 賃金を保障し市民の安心・安全を！

・せっかく育てた人材も他の仕事が見つかつたらすぐやめる。  
・低収入で仕送りが困難。子どもの進学の際に家族で引っ越し、父親が遠距離通勤(通勤費は市内のみ)。  
・若い人が働ける場に(高卒で12万)より自立・結婚できない。  
・嘱託は10万円以下、給料は安く手当ては薄い↓せめて手当ては元の給与水準で月数は国並みに。

### (3) 地元の人材を採用し、人を育てられる体制に！

・30代(子どもあり)年間90万円のカット。  
月4万・ボーナスで30万円の住宅ローン。  
H19に100万円の貯金がゼロに。薄給・残業・休日出勤・子育て環境のよくなると、非常不安。  
・求人情報をチェック

・組織として崩壊寸前、限界にきている。

■財政破綻の国・道の責任・企業の責任を明確に、債務縮減、再生計画の期間短縮を！

最後に、くまがい桂子市議は、「炭鉱閉山処理対策費(住宅・浴場・水道・学校・道路)」は総額583億円のうち、国・道補助金は185億、市の地方債は322億。国のエネルギー政策の転換の結果責任・閉山処理負担は、本来、国と企業が負担すべきもの。「赤字隠し」も国・道の容認で実行(市議会議事録に記載)↓赤字の巨額化を招いた責任もあることを改めて述べ、大門参議員も、明白な「国の責任、道の責任の分担」として、市民生活の改善と職員体制・給与の改善を強く要請しました。

## =市職員：低収入で家族に責任が持てない・多忙で心の疾患が激増、崩壊寸前！=

## 「全日本建設交通一般労働組合」 夕張支部第70回定期大会開催

11月17日(日)、

いへの連帯の挨拶を  
しました。

はまなす会館で、建  
交労夕張支部の大会  
が開催され、野呂義  
則委員長が「安倍自  
公政権の暴走をスト  
ップさせよう」と訴  
えました。

大会には来賓とし  
て日本共産党夕張市  
委員会委員長(市議  
会議員)熊谷桂子さ  
ん、夕張労働組合総  
連合議長筒井勇治さ  
んが出席し激励と闘

ふくらませる立場か  
ら意見、要望などが  
大会に参加した組  
合員からは方針案を  
かけました。

大会には来賓とし  
て日本共産党夕張市  
委員会委員長(市議  
会議員)熊谷桂子さ  
ん、夕張労働組合総  
連合議長筒井勇治さ  
んが出席し激励と闘



出されました。

最後に全員の拍手  
で運動方針案が確認  
され、次期の新しい  
役員を選出し、団結  
ガンパロウを三唱し  
て大会が終了しまし

## 第24回「市民音楽の夕べ」開催

11月16日(土)ホテルシュエパロで、夕張  
音楽協会主催の「市民音楽の夕べ」が開催され  
ました。

夕張レコード愛好会、女声合唱コール・リラ、  
コール・ポピー、夕張市民吹奏楽団、混声合唱  
リンデンコールの5団体約80人が出演し、約1  
30名の聴衆を魅了しました。

「音楽の夕べ」は、2011年から休止して  
いましたが、演奏会の復活を望む声が強くなり、  
3年ぶりに再開されました。

それぞれの発表の最後は、会場も一緒に「花  
は咲く」の大合唱をし、東日本大震災の被災地  
に思いを寄せながら締めくくられました。



## 防災マップ 意見交換会

11月22日(木)清  
水沢公民館で「防災  
マップを作るに当た  
つての意見交換会」  
がありました。

参加者は13名で、  
昨年4月JR鹿ノ谷  
線路土盛り崩落・水  
害のための住民避難  
の教訓等をどう生か  
しているのかなどの  
意見が出されました。  
防災マップの必要  
性については、東日  
本大震災を契機に、  
住民の意見を取り入  
れる事と合わせて、  
くまがい桂子市議が  
訴えていたもので、  
安全・安心のまちな  
ぐりに住民の視点を  
加えるために、この  
度の意見交換会とな  
りました。



国会「かけある記」

日本共産党 参議院議員

# 紙 智子

「あんぽ柿のブランドを消してはならない」

福島県の伊達地方特産のあんぽ柿は、原発事故の前まで  
は全国で一位、二位の販売額を誇るブランド柿でした。と  
ころが、事故後は二年続けて出荷できず。木になっている  
柿は、それほど放射線量が高くないのに、干し柿にすると、  
濃度が一〇倍にも高まるのです。

いよいよ三年目、このままブランドを消してはならない  
と、放射性物質を検査し、基準値よりも低い地域を加工再  
開モデル地域に指定し、試験的に生産をすることにしま  
した。もちろん試験的につくっても売れない場合も出てき  
ます。それが、すぐに収入につながるとは、限らない。  
ところが、東京電力は、つくれないところは、今までど  
おり年内に賠償するが、試験的につくっているところは、  
商品が売れたら、その収益分から差し引いて賠償金を支払  
うと、来年支払いになるといいます。農家は、「現金収  
入が入らなければ、十二月の支払いもできない」と、東電  
に訴えてきましたが、受け入れられませんでした。

そこで、この問題を、先日、農水委員会を取り上げ、年  
内に支払うよう東電への指導を求めたところ、「年越しの  
資金も非常に重要な時期になっていたので支払いの迅速  
化を進めるよう東京電力に適切な指導をしたい」と答弁。  
しかし、実行されるまで見届けなければなりません。

汚染水問題も含め、まだまだ、未解決の課題が残されて  
いるのに、再稼働なんて、とんでもありません。原発即時  
ゼロへの決断を迫る、大運動をさらに発展させましょう！